

# すばる望遠鏡将来装置計画 Subaru Future Instrument

高見 英樹  
Hideki Takami

$\theta^1$  Ori C

国立天文台・ハワイ観測所  
Subaru Telescope. NAOJ

# なぜこの研究会？ Why this WS?

- すばるが完成して10年、大きな成果を上げてきたが、これからが重要。Subaru, 10 yr successful operation. “Next 10 yr” is important
- 装置の世代交代が進みつつある。MOIRCS, FMOS, HSCなど。“Generation change” of the instruments
- 観測装置の競争力を保つのが鍵。Essential to have “competitive” instruments
- 最近の装置開発は外部資金頼み。かつ大型化  
Recent instruments are funded by “grants”, no internal fund
- コミュニティ・観測所のニーズ取りこまない(今は受け身に) How to include community and observatory needs

# 最近の装置開発

Recent instrument development

- MOIRCS、FMOSまでは国立天文台資金 NAOJ internal funds
- AO188特別推進、HSC特定領域＋海外他、HiCIAO 特定領域 MEXT grant+ international fund
- PFS補正予算、IRD(oppler)特別推進 Stimulus fund, MEXT grant

Geminiと比較するとうまくやっているように見えるが、VLTと比較すると、投資額も小さい。Not bad compare with Gemini, seems weak compare with VLT

戦略性がないと置いていかれる Strategic planning

# 今回の目標 Goal at this WS

- 1) 今後10年のすばるの装置戦略を総合的に考える、その第1回目。Strategic planning next 10 yrs
- 2) PFSについてコミュニティが何を期待するかをクリティカルに議論する。あれば良い、というのは良くない。Critical discussion on expectation to PFS  
来年3月には国立天文台、IPMUとしての決断  
NAOJ&IPMU will make some decision
- 3) AOは様々な道がある中で、主たる2つを提案。そのサイエンス・性能の特徴を概説。今後の議論への頭出し。Two major AO systems will be presented.  
Kick off this time.



# PFSについて観測所からのコメント

## 1) PFSへのコミュニティの決断

このWS、すばるSAC、すばるUM(来年1月)で重要な決断をする。

=>PFSを中心に据えたすばるとなる

## 2) 観測所がなすべきこと

実現可能性の見通しをたてる(体制、技術、予算)、12月-1月ころレビューをする。

Goができれば完成させないといけない

上2つを踏まえて台長とIPMU機構長との合意

# 知りたいこと

- BAOだけでもすばるが持つべきか？
- BAO以外は何か？ 強力な共同利用装置となるか？
- それは、どのような装置仕様が必要か？
- 分光すべき天体がそんなにあるか？
- 新しい研究テーマが生まれる？
- どれくらいの人を使うか？